

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300223		
法人名	株式会社 慈光		
事業所名	グループホームはな斜里		
所在地	斜里郡斜里町豊倉50番地		
自己評価作成日	2023. 3. 2	評価結果市町村受理日	2023. 4. 10

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0195300223-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人一人が自分のペースで生活を行えるように支援をする ・ご本人ができることは、実施してもらい、一緒に行くことでその方ができることを引き出していく ・イベント食や季節の食材等を使用した食事で食べる楽しみを継続していく

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広い敷地に2階建てで平成31年現在の法人により移譲開設された「グループホームはな斜里」は、当初は2ユニットであったが、現在1ユニットで1階をグループホーム、2階を職員の宿舎として職住一体となって運営している。法人はグループホーム、小規模多機能型事業所を開設しており代表者は高齢者協議会の代表を務めて町内の高齢者介護事業を担っている。特に新しい方向として外国人の特定技能職員を採用しており新年度は拡充する体制を整えて職員モチベーション向上に努めている。感染症の流行で現在は、地域との交流は制限されているが、開設以来、自治会に加入して運営推進会議への出席や自治会と合同での防災訓練に取り組み、その後の懇親会参加と相互の交流をして協力関係を築いており、感染症が収束し再開が待たれている。「穏やかな笑顔で真心をこめて接します」「一人一人の願いを大切にやさしい言葉で接します」「いつも思いやりをもって温かく丁寧に接します」「心を通わせ明るい職場を目指します」「みんなが安心できる施設を目指します」を理念として玄関に掲示し、職員会議では唱和して心に刻み実践に努めている。特に笑顔で接すること、優しい言葉遣いで丁寧に接することに心がけている。会議では「利用者の目標」として利用者へ接するときの目標「目を見て会話をし、水分摂取はストローを使用し小さいペットボトルで提供、トイレには必ず付き添う」等、数か月ごとに一人ひとりの目標を決め、満足した生活支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際に唱和し玄関入り口に貼ることで共有を図ってはいるが、実践については途中であるように感じられる	法人理念である「たんぼぼ憲章」が事業所理念であり、玄関に掲示し職員会議の際に唱和して共有し実践できるように努めている。新人教育には詳しく説明し理解できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域とのつながりは薄くなっているが、自治会の方が気にかけてくれたり、馴染みの美容室へ行くなど、可能な限りの交流は継続している	自治会に加入しているが、感染症の影響で地域活動や地域との交流は中止している。かつては事業所花壇整備の協力を得たり、共同で防災訓練を行い、その後のジンギスカンで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信は行えてはいない。今後の課題である		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実施することができていない	かつては年6回利用者家族、地域住民、行政等の出席を得た運営推進会議を開催していたが感染症対策で全て中止している。	感染症の流行下にあっても書面開催等、感染対策の工夫で開催することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは連絡を取りながら協力関係を築けるよう努力している。	町担当者とは報告書提出や情報を得るため訪問し、助言、指導を得ている。代表者は町の高齢者協議会の代表や社会福祉法人の理事に就任し行政と積極的に関わり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯職員が一人になる際自動ドアの電源を落ととしている為、取り組み	身体拘束廃止委員会を設置し毎月の会議の中で禁止対象行為や不適切な言葉遣いについて話し合いを行っている。また、研修については外部教育機関のオンライン研修を取り入れ積極的に行い身体拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で研修を行う事で意識付けを行っている		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等の機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法での加算の新設等の際、ご家族への手紙等で周知を行った		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別には設けてはいないが、連絡を取った際などに聞き取りは行っている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握するように努めている。感染対策のため、家族との面会は玄関先で短時間面会を行っており、その時や電話で把握するよう努めている。事業所から毎月「マンスリーレポート」を発行し写真のコピーを同封して様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の場やその他普段でもヒアリングの機会もうけている	職員の意見や提案は職員会議や業務中に把握し、管理者は年1回、個人面談で意見を聞いている。事業所には特定技能職員が在籍しており、さらに今年度も複数名入社予定になっており、代表者が随時個人面談で話す機会を設け、サポート体制を築き、運営に活かしている。また、研修は外部教育機関のオンライン研修を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度給与や資格手当等の確認を本人と行いながら面談の実施をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インターネットを使用した研修の機会や他法人での研修の参加の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設や他法人との合同の研修の機会等を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は様々な様子を記録することで全職員が情報を共有するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への情報提供をこまめに行うよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の様子をしっかりと観察し、必要なケアを把握するよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行っていただくことにより、暮らしの中の一員であることを感じてもらえるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子の写真や動画等で離れていても様子を感じていただけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、馴染みの場所へ出かけたりすることができるようにしている。面会制限があり馴染みの人には会うことが難しい状況	希望がある時は可能な限り感染対策を取って理髪店や洋品店等、馴染みの場所に出かけている。知人、友人の面会は感染症対策のため現在制限している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状難しい状況ではあるが少しずつ関わりが増えているように感じている		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後までのフォローは行う事できていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り聞き取りを行っている	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は日常の会話の中で把握し、難しい時は家族に聞いたり、生活歴で把握し実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中で把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適宜生活の中で現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等で個別検討を行うことにより計画に生かせるよう工夫している。	介護計画は基本的には短期目標期間の1年ごとの見直しを行っており、その際毎月3名ずつのカンファレンス、モニタリングを行い、本人、家族の要望を把握して現状に即した介護計画を作成している。介護記録(D-4シート)には日常の様子、会話が記録され共有できる取り組みを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有を行っているが、実践に生かし切れていない所もあり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在あまり行う事ができていないため、今後取り組まなくてはいけない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院・美容室等に限定されているため、趣味や余暇活動等についても積極的に活用できる事が今後の課題		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。	受診はかかりつけ医へ家族の対応で行っている。また、訪問診療を受けている利用者もいる。法人の看護師により健康管理が行われており、24時間対応で安心な体制を築いている。	

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことをうまく表現・説明できていない場面も見られるが、概ね出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のSWと連携を図りながら、治療後すぐに退院できる体制等作っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時や受診時等少しずつ家族と状況の確認などを行い、意識の統一を図るように心がけている	重度化した場合や終末期のあり方については、重要事項説明書、終末期要望調査、事前指定書で説明し理解を得ている。感染症収束後は医療機関、家族、事業所と連携を取って取り組む事としている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行う事できておらず、今後の課題である。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練等実施。ここ数年コロナの影響で行う事ができていないが、それ以前は自治会と合同で避難訓練の実施の実績あり	感染症の流行以前は自治会との共同訓練にも取り組んでいたが、現在は事業所のみで行っている。本年は夜間想定で通報、避難訓練に取り組み、特定技能職員にも理解、周知できるよう同法人のグループホームと合同で行っている。災害の業務継続計画は現在作成している。	年2回の火災避難訓練と非常災害対策計画、避難確保計画に基づいた訓練実施を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折、不適切ではないかと感じる言葉も聞かれるが、概ね気をつける事ができている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない言葉かけや慣れすぎる事のないように注意しながらの対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細なことでも、自分で選ぶ事ができるよう工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を中々聞くことができないが、本人の意思を尊重したり、表情から推し量るように心がけている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだりしながら、好み等把握するよう心がけている			

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったり、イベント毎に行事食を作るなど行っている。おやつ作り等出来る方に手伝ってもらっている。	献立、調理は専門の調理員が在籍しており、買い物から担当している。予めの献立ではなく、利用者の希望を聞いたり季節を考え行っている。行事や誕生日には特別誂えて楽しい食事になる様に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな飲み物で対応したり、ゼリー等で摂取しやすい様にし水分は工夫。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや一部介助実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、タイミング等共有したりなるべく座って排泄ができるよう工夫している	一人ひとりの排泄記録を取り、習慣行動やパターンを把握してさり気無く促しながら排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用しながら、薬のみでなくマッサージや電法、水分等工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけにより、タイミングを図りながらなるべく本人の意向に添えるようにしている	週2回の入浴を基本としている。入浴を拒む利用者があり状況、状態を考慮して入浴しているが、時には近隣の温泉施設で入浴したり足湯で気分転換をして入浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時はフロアで過ごしてもらったり、適宜昼寝の時間を設けたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の把握はできていないように思われる。薬が変更となった際などは記録し共有できるよう指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の嗜好に合わせた、飲み物やおやつを提供、食器拭きとう行ってもらっている		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、近所のみであるが、スーパーや100円ヨップ等本人の希望する場所へ行ける工夫は行っている	現在は見物や行事参加は見合わせているが、近隣にスーパーマーケットやドラッグストアがあり、感染対策を講じ人の少なくなった時を見計らって出かけ買い物を楽しんでいる。その他前庭で散歩や外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は行えていないが、スーパーでの支払い等本人に行ってもらおうなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用し、家族とテレビ電話等出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを施すなどして、季節を感じる工夫を適宜行っている。	リビングは換気や温湿度を保ちながら換気にも配慮している。中央は回廊型の廊下であり歩行のリハビリに取り組む事が出来る。季節の飾りや写真を掲示して楽しい雰囲気になるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内で空間がそれぞれ分かれているような配置とし、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持参してもらうなどして、今までの生活となるべく近い様にしている。	居室にはクローゼット、眠りスキャンの付いたベッドが設置され利用者は衣装ケースや筆筒を自宅から持参して配置している。家族の写真や絵、ぬいぐるみを飾り居心地よく生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室前の表札や扉の前の案内表示等工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームはな斜里

作成日：令和 5年 4月 10日

市町村受理日：令和 5年 4月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組みについて感染症の流行下にあっても書面開催等、感染対策の工夫で開催することを期待したい	集合、書面ハイブリット方式を取り入れながら、2ヶ月に1回の開催を遵守する	以前の参加メンバーへ再度の開催の周知と参加の依頼をお願いし、早急に開催の準備を整えると共に、書面開催の場合には、施設からの報告のみでなく、意見や質問等双方向のやりとりが行えるよう工夫をする。	1年
2	35	災害対策 年2回の火災避難訓練と非常災害対策計画、避難確保計画に基づいた訓練実施を期待したい。	10月、3月に予定を組み実施できるようにする。	グループホームたんぽぽと連携し、日程をそれぞれ2日設けることにより、はなとたんぽぽどちらかに必ず職員が出席できるよう工夫する。 また、1度は入居者さんにも協力をしていただき、動きを確認するため実際に避難を行う。また、自治会・消防署とも協力をする。	1年
3		サービス担当者会議 サービスの変更や内容についてご家族も交え相談し、それを別紙の書面にまとめる	身体状況の変化や、サービス内容の変更が生じた際ご家族に相談、希望を確認し、説明の機会を設け、それを書面に残すことでご家族への説明の証明とする。	普段からご様子や状況をお伝えすることで情報の共有を図りながら、ご家族にサービス内容について理解をしていただくようにする。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。